

平成 28 年サワラ春漁の漁況予報

平成 28 年 4 月 5 日
香川県水産試験場

1. 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲状況

漁獲量の推移を図 1 に示します。

平成 21 年から 24 年にかけて増加し、それ以降はおおむね 400～600 トンの範囲で変動しています。27 年は、サワラ 480.4 トン、サゴシ 18.8 トンの計 499.2 トンでした。

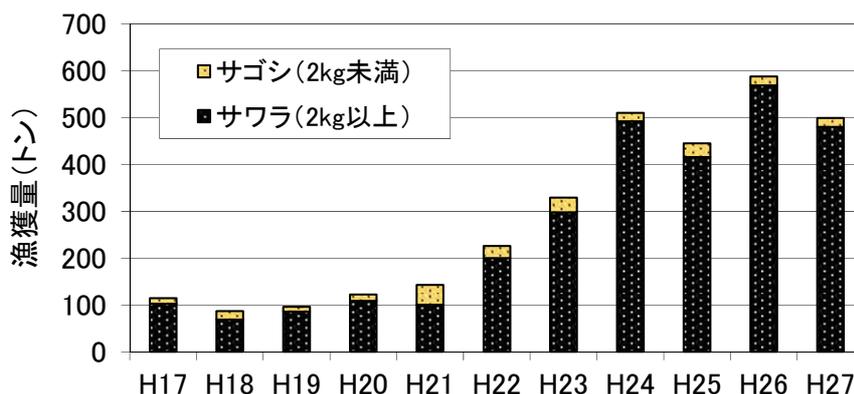


図 1 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲量の推移
漁獲成績報告、主要漁協漁獲量報告に基づき、香川県が集計。

2. 平成 27 年に稚魚はどの程度発生して育っているか（0 歳魚資源尾数の推定）

各年のサワラ 0 歳魚資源については、国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所が各府県のデータを収集解析し、瀬戸内海系群の資源評価において尾数を算定しています。現在、平成 26 年発生群まで示されていますが、27 年発生群については香川県で得たデータから推定する必要があります。

そこで、瀬戸内海区水産研究所が算定した尾数と相関が高い香川県のデータとして、播磨灘の大型定置網で漁獲されるサワラ 0 歳魚の漁獲量、8 月に播磨灘から得たサワラ 0 歳魚サンプルの平均尾叉長を用い、回帰直線により推定しました。結果は図 2 のとおりで、瀬戸内海における平成 27 年発生 0 歳魚資源尾数を 1,000 千尾程度と推定しました。

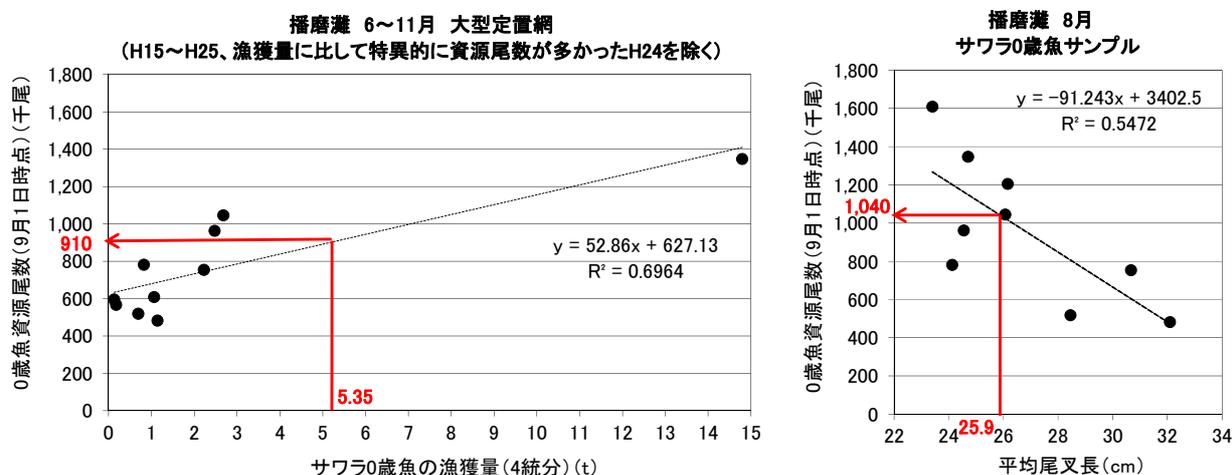


図 2 平成 27 年発生 0 歳魚資源尾数の推定

3. 平成 28 年春漁の漁況予測

香川県の春漁におけるサワラの年齢別漁獲尾数を推定し、それと0歳魚資源尾数との関係を図3に示します。漁獲魚の年齢は、2歳または3歳、あるいはその両方が主体であることがわかります。

0歳魚資源尾数が多ければ、その年級群が翌年に1歳魚として、2年後に2歳魚として、3年後に3歳魚として、4年後に4歳魚として多めに漁獲され、少なければその逆になる傾向があります。

この傾向から、平成28年春漁における漁獲尾数は、4歳魚が多めであるものの、2歳魚、3歳魚が少なめになると考えられます。漁獲の主体になる2歳魚、3歳魚がともに少なめであることから、漁獲量は26年、27年よりやや減少すると予測されます。

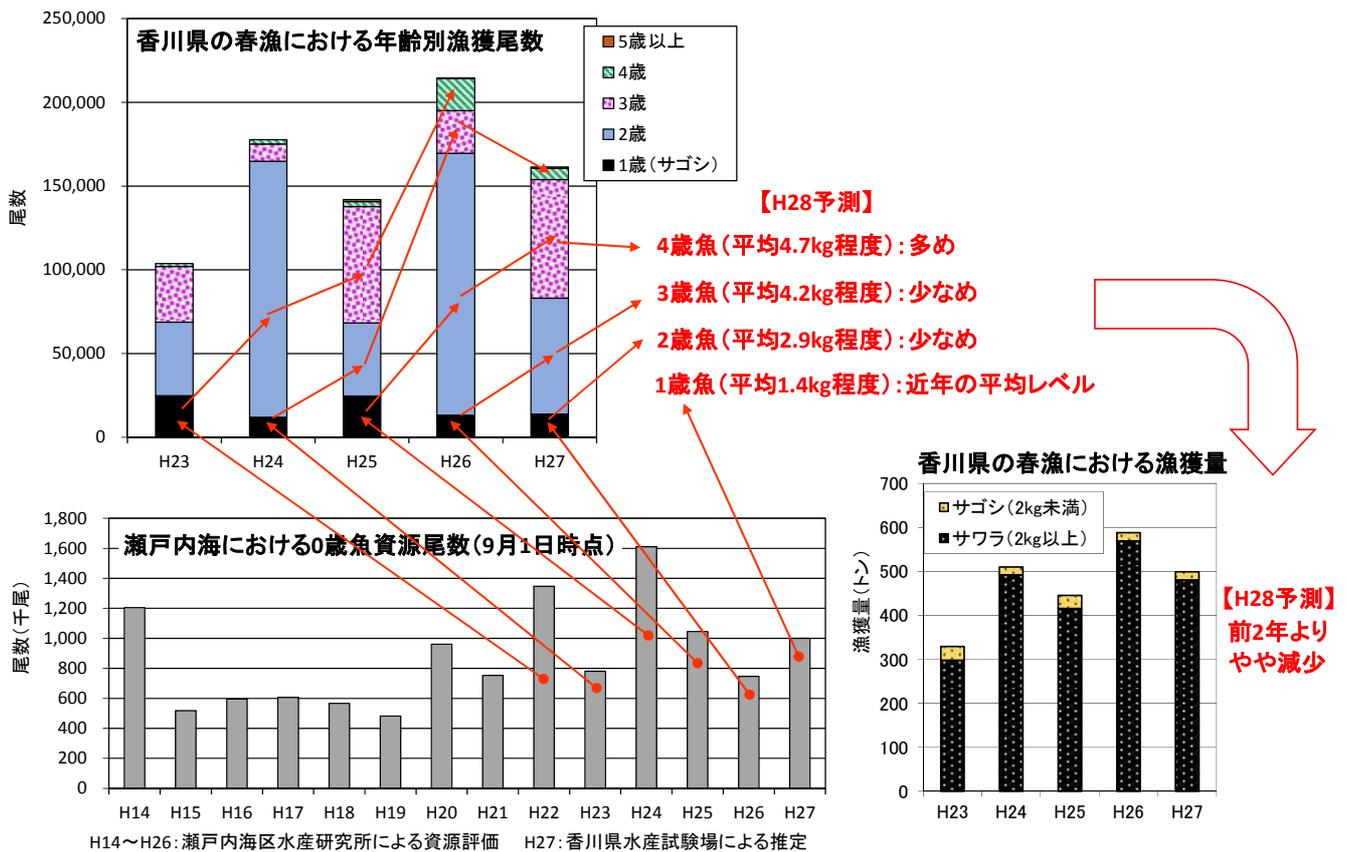


図3 0歳魚資源尾数の推移と春漁における漁獲の関係

瀬戸内海区水産研究所によるサワラ瀬戸内海系群の資源評価では、水準は低位、動向は増加となっています。本格的な資源回復の指標として、より高齢化、小型化、晩熟化が提示されており、特に若齢魚に対して現状以上の漁獲規制を実施・継続し、資源量をより増加させることが必要であるとの見解が出されています。現状の資源管理の取組みを緩めることなく、今後とも継続することが必要です。